



訪問看護ステーション 新人研修を試みました

看護部長 関みわ

京都保健会看護部は、訪問看護ステーション教育要項を作成し、新たな試みとして、ステーション配属1年未満の「新人研修」を6・7月に5日間、延べ54名の参加で開催しました。

参加者は20代半ばから50代、看護師経験も5年から30年、学会・信和会からも参加があり、幅広い職員で、講義とグループワークを取り組みました。

講義は、訪問看護の仕組み、対象と訪問時の留意事項、アセスメントと看護の展開、社会保障制度、急変時の看護、面接技法、栄養管理・NST、排泄スキンケア、服薬管理と多岐にわたる充実した内容で、講師はステーション所長、事務長、認定看護師、臨床心理士、薬剤師と各領域の専門家にお世話になりました。

花車薬局の門薬剤師さんは事前にアンケート



をとり、現場の看護師の問題意識をもとにした講義、若佐臨床心理士さんからは、信頼関係を気づくための態度や話し方について具体的なお話で、明日からの訪問に役立つ内容でした。救急、皮膚排泄の認定看護師さんからは、在宅でもすぐ使用できるツールを紹介してもらいました。

参加者からは「人間性を磨いて利用者・家族に喜ばれる看護をしたい」、「学ぶ機会が少なく勉強をするきっかけになった」など感想が寄せられました。

講義の資料は冊子にまとめて各ステーションに配布しました。秋には役員、管理者を対象に研修を予定しています。

友の会

活動家紹介

綾部健康友の会
渡辺綱男さん



みんなから「綱さん」と呼ばれて親しまれてる渡辺綱男さんを紹介します。

受信圏内となり、携帯電話を駆使して情報をやりとりしておられます。先日は珍しいへびが現れたと、携帯で写真を撮って見せていただきました。

勤務姿勢がトレードマーク、穏やかな語り口ですが、けっこうするどい事もストリートに話されます。

綱さんならではの句会は始まりません。毎月、車で一時間かけて京都協立病院とあやべ協立診療所へ、句会の準備、開催や掲示する句の清書や張り出しに奮闘されています。

また、友の会だよりの配達にも協力していただいております。広い地域を回っていただいております。

(京都協立病院 高野俊二)

友の会の句会サークルを取り仕切っていただき、毎月、句会の作品を、京都協立病院とあやべ協立診療所に掲示していただいています。

お住まいは、綾部市の北部、福井県境の奥上林地区で、高浜原発の10キロ圏にあと500メートルの所です。綾部市街へ出て来るよりも福井の方がよっぽど近いと、普段の買い物はもっぱら高浜で済ませ、なじみの喫茶店もできたとか。

最近、ようやくドコモの